



洛風だより・ほかほか通信 ～保護者のみなさまへ～

夏休み、いかがでしたか？

リオデジャネイロ五輪の印象が残る夏休みでしたが、保護者の皆様もお子様と一緒に少しは夏休みらしい一時を過ごすことができたでしょうか？「夏休みのかけら」をのぞいてみると、旅行やキャンプ、花火大会を楽しんだり、お墓参りやお家の手伝い、そして宿題など、夏休みらしく過ごしてくれていたようです。これから、いつもの学校生活に戻るとともに、修学旅行など様々な行事への取組も始まります。



子どもたちを、がんばらせたいところですが こんな見方もありますよ・・・

学校より社会のルールのほうが優しい

「学校も行けなくてどうするんだ？社会に出たらもっと厳しいのに」という大人もいます。特に厳しい社会で働いている父親に多いのですが、「社会に出てみたら、社会は学校よりもっと優しくかった」という経験者に何人も会ってきました。社会には一応常識が通用するけれど、学校は場合によっては、そこだけに通用するルールができています。特にクラスにいじめが起きているときなど、特別なルールがあって、毎日同じ子どもがいじめられている。あるいは、日によって違う誰かがいじめのターゲットになっていて、みんなが腹の探り合いで非常に緊張した状態になっていることもあります。

中学校のとき不登校になり、高校へ行かずにバイトをしていた子どもが、「社会に出てみたら、結構よい人がある。学校へ行ったらときは、みんながとげとげして怖かったけど、一般社会には優しい人があるよ」と言っています。

高校生くらいの年齢になると、学校へは行けないけれどバイトだったら、できるという人がいます。集団に馴染みにくい子どもとか、場面緘黙でずっと学校に馴染めなかった人が、自分のバイト先を見つけてきて、仕事を続けているという話も聞きます。真面目な子どもが多いですから、仕事先で頼りにされたり認められたりして自信がつくと、学校に行く意味を見つけて行けるようになることも多いです。

どうしても学校という環境が合わない子どももありますが、卒業に向けてさまざまなサポートをしてくれる学校もあるので、自分なりのやり方で単位を取って卒業資格を得ています。その他、中学校卒業資格で入学できる専門学校もあるので、高校へ行かずにそこで専門的な資格を取得して就職した人もいます。

不登校でも子は育つ ～母親たちの10年の証明～



先日お知らせしました「進路保護者会～不登校の子どもたちの進路を考える～」で、お話しいただく親子支援ネットワーク♪あんだんて♪代表の福本早穂さんたちが出版された「不登校でも子は育つ～母親たちの10年の証明～」からの引用です。

学校は優しくて、社会は厳しい、だから今のうち何とか強くならなければ…と考えがちですが、学校よりも人として優しく迎え入れてくれる場所もあるはずです。見方を変えると不安を希望に変えることができます。今回の進路保護者会でも長年の支援の経験から、様々な見方や情報を伝えていただけたと思います。